

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第2号（通算63号）
令和元年5月22日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行

三条嵐南学園



4月25日(木)

合同避難訓練 全校児童生徒 1300人が避難指示を聞き、静かに速やかに避難しました。

更なる洗練、深化へ ～小中一貫教育の価値を高める～

教育センター長 捧 信之

三条市が小中一貫教育の取組を始めてから、今年度はいよいよ11年目となります。これまで、多くの教職員の皆様の御尽力により、落ち着いた学校、笑顔あふれる学校が具現されてきました。深く感謝申し上げます。

11年目を迎えた今年度は、更なる洗練、深化を目指し、小中一貫教育の価値を高めていく年となります。そのために大切なことは「学園内の子ども同士、職員同士のつながりを深めていく」ことです。小中交流、乗り入れ授業等、顔を合わせ、一緒に活動する中でつながりは深まっていきます。深いつながりの中で、子どもたちの自己肯定感、自己有用感が高まり、意欲や社会性が育まれていくのです。その中核は日々の授業改善です。子どもたちが一日の中で最も長い時間を過ごす授業の中で生き生きと学習に取り組む、居場所がある、それが何より大切ではないでしょうか。学習問題◎とは「子どもの問題意識」であり、「子どもの思いを大切にする授業」の象徴でもあります。9年間を貫く育ちを見通しながら、学園一体となって子どもたち一人一人の思いを大切にする授業・教育活動を展開していただければと思います。

また、小中一貫教育を支えるのが、コミュニティ・スクールであり「地域とともにある学校」です。子ども同士、職員同士のつながりに留まらず、保護者・地域の方とつながり、一緒になって地域の文化を創っていく中で、子どもたちは健やかに成長していきます。

「一人一人の思い」を大切にし、その「つながり」を深めていくこと、それが小中一貫教育の価値を高めていくのです。

学園研修会

四つ葉学園

5月15日(水)



新潟大学教職大学院准教授の一柳智紀様から「学び合う授業の創造～対話が生まれる深い学び Part 3～」の演題の下、御講演をいただきました。その後、各部で年間活動について確認しました。

瑞穂学園

5月15日(水)



今年度の重点「乗り入れ授業」について話し合いました。各教科部会では、中学校での生徒の様子や小学校での学習の在り方などについて情報交換しました。全教職員が9年間の学びについて真剣に考えました。

三条おおじま学園

4月23日(火)



今年度の学園小中一貫教育テーマは、「学びをつなぐ、人をつなぐ、心をつなぐ」です。この日初顔合わせの学園職員は、自己紹介の後、各種部会と重点教科部会を開き、年間活動をスタートさせました。

さかえ学園

5月10日(金)



今年度は、「SNSルール」を作成することが新しい取組です。また、防災教育の授業をする上で小中のつながりをどうしていくかということについても話し合い、新年度の良いスタートを切りました。

ただの郷学園

諸橋轍次記念館で館内見学、分科会、下田の藤兵衛工房 代表取締役 山田宏高様の講話など、職員が「ただの郷」について深く学び、語り合う良い機会となりました。

4月17日(水)



登校風景・あいさつ運動

一ノ木戸ポプラ学園



5月13日(月)~21(火)

第二中学校の生徒と一ノ木戸小学校の児童が、玄関前と学校前の道路に立ちます。のぼりをもって、あいさつを呼びかけています。

大崎学園



5月7日(火)

1年間を通して、毎朝、後期課程の生徒と前期課程の児童が、玄関前に立って、あいさつをしています。校長先生も一緒に玄関に出ています。

チャレンジウォーク

三条学園



5月12日(日)

今年で25年目を迎えたチャレンジウォーク。五十嵐川大谷ダムから歩いた距離は32km。学園の小学生も30名が参加しました。みんなで手をつないでゴールイン！

小中一貫教育の今年度の2つの重点

小中一貫教育の目的は、ひと言で言えば「子ども一人一人の意欲と社会性を育むこと」です。この目的に対する意識が弱いと、単に小中一貫した教育活動を「こなす」状態に陥ってしまいます。「子どもを育てる」という観点から、一つ一つの教育活動で子どもの「意欲」と「社会性」が育っているかを、子どもの姿から評価しながら、不断の改善を続けていくことが大切です。

4月17日に開催した「小中一貫教育推進マネジメント研修」では、その目的を達成するための「今年度の重点」について、各学園の参加者と共有しました。すべての学園で、以下の2つの重点が意識されるよう、教育センターでも支援していきます。

重点1 「子どもの学習意欲を育む取組の充実」

子どもの学校生活の中心は授業です。小中一貫教育の視点で子どもの学習意欲を育むために、以下の3つの取組を充実させます。

- ① 学習問題◎のある授業
- ② 9年間の学びのつながりを意識した授業づくり
- ③ 乗り入れ授業



重点2 「子どもの社会性を育む働きかけの充実」

各学園では特色のある小中、小小の子どもとの交流活動が行われています。交流活動の中で、次の2つの働きかけが大切と考えます。

- ① 子どもが地域の方や異校種の仲間と触れ合う場（グループの編成など）の工夫
- ② 活動の中で、地域の方や異校種の教職員による子どもを認める声かけ

小中一貫の活動自体が子どもを育てるのではなく、その活動を通してどういう指導・働きかけをするかが子どもを育てるかぎと考えます。各学園で行っている活動を大切にしながら、ちょっとした指導・働きかけの工夫・改善で子どもが育ちます。

学習問題◎のある授業づくり&カリキュラム研修 4/23、5/22

授業づくりは小中一貫教育の中核です。本研修ではカリキュラムのつながりを意識した授業づくり、子どもの問題意識（◎）を引き出す授業づくりについて研修しました。「◎」を大切にするということは、子どもの意識を大切にしながら授業づくりをするということです。参加した先生方からは、前向きな感想をたくさんいただきました。

＜参加者の感想から＞

- ・初任者で初めての研修でしたが、今後の授業づくりにつなげていこうと思います。学習問題を大切に、子どもを大切にがんばります。
- ・子どもに見通しをもたせること、子どもの問いや願いを引き出すことで、学習意欲を喚起しながら授業をつくるのが大切だということが分かりました。
- ・学習問題（◎）について、これまでの自分の実践してきたことと大差ない（子どもの声から課題を設定する）ことが分かり、安心しました。
- ・子どもの発言や反応を大切にしなければいけない、という意識が強まりました。出来る限り日々の授業で「◎」を入れた授業ができるように準備していきたいと思います。

